

出張報告

日時：平成22年3月2日（火）13:00～14:45

出張先：岐阜薬科大学・薬理学教室（〒501-1196 岐阜市大学西 1-25-4）

目的：岐阜薬科大学・岐阜大学連携教育プログラムの現状見学と担当教員（稲垣直樹教授）との意見交換

●稲垣先生からの現状報告

1. 「連携」設立の経緯

岐阜大学・岐阜薬科大学では、既に工学部（生命工学）主導で、医工薬連合大学院（大学院博士課程、以下「連合」と呼ぶ）が設置され、3年目を迎えている。当初、入学希望者が多かったが、徐々に減少し、設置3年目には入学定員（6名）を割る（5名の入学者）事態になり、その対策として、工学部主導で連携大学院（工薬連携の修士課程、以下「連携」と呼ぶ）を発足させた。

2. カリキュラム等の実情

岐阜大学大学院工学研究科（修士課程）では「創薬コース」を設置し、これと岐阜薬科大学大学院修士課程が、それぞれ4科目ずつ（合計8科目）の演習付の科目を設置し、単位互換可能な科目として学生が選択できるシステムを作っている。演習では、セルソーター（昨年度購入）、LC/MS/MS（今年度購入）やレーザー顕微鏡など、機器を利用した演習を平行して行っており、現在のところ、機器使用において研究と教育で上手く共同利用できている（使用時間の取り合いなどの不都合は生じていない）。

しかし、連携に参画した教員は、本来の所属での大学院講義（10コマ）と連携の大学院講義（演習を含む）を担当することになり、負担が増えており、多忙になっている。

3. その他の教育上の特徴

英語教育にも力を注ぎ、TOEICでの得点向上を目指す講義を取り入れている。また、本教育で良い成績をあげた学生を中心に海外研修（1年間）の機会を与え、経済面で支援している（旅費、生活宿泊費で1,000,000円/年・1人）。今年度は、岐阜大学側から4名、岐阜薬科大学側から1名を海外研修に出した。

●当方からの質問に対する回答

1. これからの課題は？

岐阜薬科大学としては、近日中に2つの大学院（薬科学専攻、薬学専攻）を立ち上げる必要があり、連合、連携大学院に積極的に教員を出すことができない状況にあり、なかなか積極的な協力ができず、消極的になっている。そもそも、薬科学専攻の大学院は、本来、「創薬コース」であり、連合・連携大学院との協力は、薬科大学の教員組織を複雑にしてしまうという難点が伴う。例えば、今回お世話になった稲垣教授ともう一人（分析学の教授）は、連合大学院（博士課程）の併任教授となっており、岐阜薬科大学では、学部と大学院修士課程にしか所属していない。

さらに、連合・連携の学生の大半は社会人入学者で占められており、学部から進学してくる学生が少なく、土日、休日中心の指導となり、十分な指導が行えていると言えない。

2. 単位互換制度を活用して、今後、連携で学部を設立する計画はあるか？

6年制の導入以来、薬学部に入學してきた学生の将来を考え、薬科学科の学生にも薬学科必須科目を選択できるようにカリキュラムを組んでしまっているために、他学部の科目を選択する余裕は、学生にない。そのため、現状で連携での単位互換などに大きな障壁があるため、今のところ、現実味がない。

3. 連合、連携での専任教員は、おられるか？

連合に専任の教員が1名おられる。

終始、和やかな雰囲気での会談が行われた。最後に、先方に御礼を申し上げ、現地解散とした。



訪問先の稲垣先生と報告者（梶本） 岐阜薬科大学の新校舎（岐阜大学病院横）

以上

平成22年3月3日

梶本 記